資料市懇２６－４号

第２５回　市民参加懇談会コアメンバー会議
－市民参加による政策検討会議－
議事録

１．日　　時：平成１８年１０月１６日（月）１５：００～１７：００

２．場　　所：虎ノ門三井ビル２階　原子力安全委員会第１、２会議室

３．出　席　者：木元座長、碧海委員、浅田委員、新井委員、出光委員、
井上委員、岡本委員、小川委員、東嶋委員、中村委員、吉岡委員
（原子力委員会）齋藤委員長代理、町委員、前田委員
（内　閣　府）黒木参事官、牧野企画官、西田補佐

４．議　　題：１．「市民参加懇談会ｉｎ札幌」の開催結果について
２．次回の市民参加懇談会の開催について
３．その他

５．配付資料
資料市懇第２５－１－１号　「市民参加懇談会ｉｎ札幌」の概要
資料市懇第２５－１－２号　「市民参加懇談会ｉｎ札幌」のアンケート結果
資料市懇第２５－２号　「市民参加懇談会ｉｎ札幌」で頂いたご意見等の整理
資料市懇第２５－３号　次回の市民参加懇談会について
資料市懇第２５－４号　第２４回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

○木元座長　時間でございます。第２５回になりますけれども、市民参加懇談会コアメンバー会議、開かせていただきたいと思います。

何か秋になって涼しくなったかなと思ったら、また今日は暑いですね。上着をどうぞおとりになってください。

それでは、まず最初に、こちら側の事務局の方で担当の交代がありました。お手元のところに西田さんのお名前が出ていますが、その前は赤池さんがご担当くださいました。一言どうぞ。

○赤池氏　赤池でございます。今回、異動がございまして、文部科学省の方に戻り教育関係の仕事をすることになりました。１年余りの間、コアメンバーの先生方には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。なかなか至らない点が多かったと思いますけれども、市民懇、さらに発展して盛り上げていっていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、どうもありがとうございました。

○木元座長　それでは、バトンタッチでお願いいたします。

○西田補佐　赤池補佐の後任で参りました西田と申します。

文部科学省の方から、内閣府の方に出向という形で来させていただいています。原子力は、安全分野の方が結構長かったことはあるのですけれども、原子力の推進側というのは、前職で少し全体の中でかかわったということで、こちらの方でも引き続きいろいろと努力させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○木元座長　では、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思いますが、その前にお手元の資料がそろっているかどうかのご確認もさせていただきたいと思います。これは事務局の方からお願いいたします。

○西田補佐　それでは、資料の確認をさせていただきたいと思います。

まず最初に、議事次第、座席表でございます。第２５－１－１号として「市民参加懇談会in札幌」の概要、それから第２５－１－２号としましてアンケートの結果、そして第２５－２号といたしまして「市民参加懇談会ｉｎ札幌」で頂いただいたご意見の整理、それから第２５－３号といたしまして、次回の市民参加懇談会について、それから資料第２５－４号といたしまして、市民参加懇談会コアメンバー会議第２４回の議事録、以上でございます。

○木元座長　ありがとうございました。

お手元に揃っていると思いますので、そのまま進行させていただきます。いろいろな資料がありますので、それをまた皆様方からご意見がありましたら、是非いただきたいと思います。今すぐ目をお通しできないと思いますけれども、いただいたご意見にこちらの対案として処理の方法が書いてありますので、それももし何かご意見がございましたら、ぜひお寄せいただきたいなと思います。

それから、今日、松田さんがお見えになるということでしたけれども、先ほどお電話がありましてご欠席になりました。

それでは、皆様のお手元にあります議事次第の方から「ｉｎ札幌」の開催結果についてということで、まとめたものがありますので、それをもとにご説明いただけますか。お願いいたします。

○西田補佐　それでは、札幌の開催結果の概要につきまして、資料第２５－１－１号に基づきましてご説明させていただきたいと思います。

前回、平成１８年９月２９日に、札幌市生涯学習センターで開催されてございます。

出席者の方は、ここに記載の方々のとおりでございます。

なお、パネリストといたしましては、大友様、佐藤正知様、それから佐藤のりゆき様という形で招いております。

概要といたしまして、第１部、パネルディスカッションでは、先ほどの３名のパネリストの方をお招きいたしましてご意見を伺いました後、コアメンバー、パネリストの間でディスカッションを行っております。また、第２部におきましては、市民からのご意見ということで、参加者からのご意見を伺うとともに、事前にいただいたご意見につきまして、懇談会のコアメンバー、パネリストの間でディスカッションを交えて活発な意見交換が行われてございます。

次ページ以降、その主な発言の内容が記載してございます。主な中身でございますけれども、「石油価格の高騰は大変深刻である。エネルギーと食糧の課題は、北海道が担っていかなければならない」でありますとか、「我が国全体の安全保障から考えても、エネルギー問題は非常に大事」というようなご認識がある一方で、原子力につきましては、例えば「原子力が安全であるということを、この一言で済ませようとした広報活動に大変問題がある」、あるいは「安全性を獲得してきた技術といえども、その危険を拭うことができないような技術は使えない」など、原子力の安全につきまして疑義が呈されているような

発言もございました。一方で、「我が国の原子力政策大綱でも国家戦略でも言っているように、２０３０年頃になっても原子力を基盤電源としてその他の電源と共に使っていくという方向は、妥当ではないか」というような政策的な背景のご発言もございました。

それから、第２部の方の主な発言でございますけれども、「プルサーマルの安全性について賛否があるが、それについて知りたい」というようなご発言がございました。また、「３０年、５０年ぐらいのスパンで考えると、自然エネルギーが伸びてこない限り、原子力の重要性は非常に大きい」というようなご指摘もございました。

しかしながら、原子力につきましては、「原子力の話は、受け手側も相当勉強しないとなかなか理解ができないのではないか」という原子力の広聴・広報の難しさというのもご指摘いただいているところでございます。

一応、第２部の主な発言は以上でございます。

続きまして、資料第２５－１－２号、「市民参加懇談会ｉｎ札幌」のアンケート結果ということで、資料のご説明を引き続きましてさせていただければと思います。

まず、１．のところでございますが、「内容・雰囲気について」につきましては、「大変満足した」あるいは「だいたい満足した」という回答につきましては、全体の７割程度という形でご回答いただいております。その理由については、「大変満足した」、「原子力賛成、反対の論理がわかってよかった。のりゆき氏の言う、やむを得ず賛成がほとんどで、反対者の論理は革命に近い話」という意見もございました。また、「専門的角度、視点でのディスカッションの中で、今後におけるエネルギー問題を国の方向付と捉えて真剣なる御意見を拝聴した」というようなご意見もございます。

続きまして、「満足した」というご意見でございますけれども、その中では、「目の前にパネリストのメンバーがいてとけ込みやすかった」。あるいは、「討論が意外にも熱く、面白かった」というような回答をいただいてございます。

続きまして、２ページでございますけれども、「だいたい満足した」というような回答をいただいた中には、「反対派も呼んだこと。ただし、人数を増やさなければ一方的な印象を与える」。あるいは、「技術的な用語が多く不明な点がある」というようなご意見もいただいてございます。

続きまして、３ページの〈４〉でございます「ふつう」という回答をいただいた方のご意見でございますが、「構成上ではないとは思うのですが、反対意見の人ｖｓ賛成（推進）ばかりとなり、やや話（内容）が単調・平行線であった」というようなご意見、それ

から、「原子力に反対されている方を設定されているのは非常に良いと思いますが、やはり、個人に議論が集中してしまうのが残念でした」というようなご意見をいただいております。

一方、「あまり満足しなかった」というご意見をいただいている方のご意見ですが、「賛成派の広報、懇談会に写った。賛成派、反対派ともに具体的数値を示し、「何故」「どうして」を討論して欲しかった。例えば、北海道にエネルギーが「有る」との事だが、具体的にはどれだけ」あるのかという具体的な広報をしてほしかったというようなご意見もいただいてございます。

続きまして、４ページの方でございますけれども、「不満」とご回答いただいた方のご意見でございます。「会場ムードがとても堅苦しい」。それから、「原子力推進が前提になった議論。自然放射線と原発の議論を同等に述べるのはおかしい」というようなご意見などがございました。

続きまして、５ページの方でございますけれども、「本日の「市民参加懇談会ｉｎ札幌」の開催時間（３時間半）について、あなたのお考えに最も近いものの番号に○印をお付け下さい」という回答でございますけれども、「適当だった」というのが最も多く、「やや長かった」あるいは「長かった」という意見が若干多目に出てございます。

それから、３．でございますけれども、「今後の市民参加懇談会の活動について、あなたはどう思われますか。あまたのお考えに最も近いものの番号に○印をお付け下さい」という回答でございますけれども、「大いに期待している」あるいは「まあまあ期待している」の間の回答が一番多かったというような形になってございます。

続きまして、６ページの方でございますけれども、「本日の「市民参加懇談会ｉｎ札幌」の開催を何でお知りになりましたか」ということにつきましては、「友人・知人から」という回答が最も多く、その後は「その他」あるいは「新聞報道」という回答が続いて多くなっているという状況でございます。

５．といたしまして、「本日の「市民参加懇談会ｉｎ札幌」で、あなたにとって興味深かった意見や事項、その他お気づきの点などがあればお書きください」ということにつきましては、代表的な意見といたしましては、「原子力に反対の方は代替案を持っていない方が多いと思います。今回も反対と思われる方が、例えばCO_2の問題を問われると、それは論外で廃棄物は・・・などと論点のすり替えをする場面もありました。これは政治の世界なども同様ですが、論点のすり替えをしている様では議論は先に進まないと思います。

相手の欠点ばかり突くのが討論ではないと思いますが」というようなご意見もございました。

また、７ページでございますけれども、「佐藤のりゆき氏の「原子力に対して賛成派、反対派で分けることがおかしい。もっと建設的な議論を！」という意見に大変共感した」というようなご意見もございました。

それから、下の方でございますけれども、「反対派等、様々の意見を持っている方に参加していただきたい」。今回、反対派の方が１人で頑張っていたというような印象が非常にあったということを聞いておりまして、非常にその１人の方を皆さんが説得するような形になっていたというような状況があったということもございまして、このような「反対派等、様々の意見を持っている方に参加していただきたい」というような意見もございました。

それから、８ページの上の方でございますが、「新エネルギー派のパネラーは、断熱材などを例に出したが、生活分野だけでなく、経済活動全体の中で考えなければ説得力はないと感じた。これに対し、北大のパネラーは、資源全体のことを考えながら原子力を語ってくれたので、説得性があった」というようなご意見もいただいてございます。

また、８ページの中段でございますけれども、「推進側、反対側の主張をわかりやすくオープンにすることで、正しい選択肢をもてるようになればいいのではないか」というようなご意見もございました。

また、「情報提供・収集のあり方について」、８ページの下の方でございます。「現状のエネルギー政策についての簡単な資料があったらよいと思った。良い資料はたくさん原子力委員の方でも作られていると思う」というようなご発言もございました。また、「事前質問について具体的な一問一答があっても良かった」というようなご意見もございました。

最後、９ページでございますけれども、その他意見ということでございまして、「個人的には、原子力以外に道はないと思っているが」というような意見もある一方、「自然エネルギーについても、もう少し予算をつけてバランスを取った方が良い」というような意見も出されてございます。

最後、６．の年齢及び性別の全体の割合でございますけれども、年齢につきましては４０代から５０代が約半分、そして２０代から３０代が３割、６０代以上が２割というような状況でございます。続きまして性別は、男性が約８割で、女性が約２割というような性

別になってございます。

一応、アンケート結果につきましては以上でございます。

○岡本委員　質問があります。資料にわからないところがあるんです。

○木元座長　今のアンケートのところで。

○岡本委員　はい。１ページの上のグラフと５ページの下のグラフ、棒グラフの棒の数が項目の２倍ありますね。これは何ですか。

○西田補佐　これにつきましては、アンケートをお聞きしたときに、「大変満足した」、「だいたい満足した」、「あまり満足しなかった」という、その数直線のところにどこかマルをつけるという形になってございまして、例えばこの「大変満足した」と「だいたい満足した」の間にも、マルをつける箇所があって、そこにマルをつけた方が棒グラフにあらわれているということでございます。

○岡本委員　５ページの下も同様ですか。

○西田補佐　５ページの下の方につきましても、そうでございます。

○木元座長　これは、どういう形で設問をしたかというペーパーをつけた方がわかりよかったかもしれないですね。

○西田補佐　はい、そうです。すみませんでした。

○木元座長　貴重なご質問、ありがとうございました。

では、次に行かせていただきます。

○西田補佐　それでは、続きまして「市民参加懇談会ｉｎ札幌」で頂いたご意見の整理ということで、こちらの資料第２５－２号の方に整理させていただいてございます。

まず、広聴・広報でございますけれども、いただいた主な意見を整理させていただきますと、「原子力に関して、自らが判断出来るよう分かりやすい情報が必要ではないか」ということで、「原子力のメリット・デメリット（環境、電気料金への影響、潜在的な危険性など）」、それから「専門用語を使わない分かりやすい情報」、続きまして「良い情報、悪い情報も隠さないことが重要」、それから「核燃料サイクル、世界における原子力開発の動向、原子力の安全性、必要性、利便性についての情報」。続きまして、「説明会、勉強会等を地方都市でもっと開催してほしい」。「「原子力政策」と「国民・市民」の間の距離が縮めてほしい」というようなご意見に対しまして、対応といたしましては、「原子力政策大綱では、２－５－２「広聴・広報の充実」に原子力の研究、開発及び利用に関しての国民や地域社会との相互理解を図る活動の必要性について示しております。原子力委

員会としては、これを踏まえ、正確でわかりやすく、受け手のニーズに配慮した説明に努めることが必要であると考えており、ご意見を関係機関に伝えます」というような対応を書かせていただいてございます。

それから、原子力発電につきましてのご意見でございますけれども、まず最初は、「資源小国、環境問題、安定・安価な電力供給等を考えると原子力の利用は妥当と考える」。また２番目では、「現状では原子力を選択するのは妥当だと考えるが、原油価格等の高騰などの情勢変化や再生可能エネルギーの開発状況により数値目標を見直すことが必要ではないか」。最後でございますが、「原子力の比率は、リスク回避できる範囲が妥当であり、原子力がその役割を果たせない場合のバックアップも考えるべきではないか」というようなご意見でございます。

それに対する対応といたしましては、「原子力政策大綱では、３－１－２「原子力発電」に、エネルギー供給のベストミックスの追求、原子力発電がエネルギー安定供給及び地球温暖化対策への貢献の期待について示しております。原子力委員会としては、これを踏まえ、正確でわかりやすく、受け手のニーズに配慮した説明に努めることが必要であると考えており、ご意見を関係機関に伝えます」という対応を書かせていただいてございます。

３番目の教育についてでございますけれども、「原子力に対する見直しが世界中で進められる一方で、市民レベルで考えると、まだまだ理解が不足しており、イメージもよくなっていない。初等教育からしっかりと「エネルギー安定供給とは何か」を教える必要があるのではないか」。それから、「今後のエネルギーの重要性を考えると、一般市民も自らの学習に基づき判断していくべきであり、判断ができるよう小学校からエネルギーについて教育すべきではないか」。３番目でございますけれども、「放射線に関する「教育」がなされていない。原子力をふくめ「教育」にどう組み込むかが大きな課題でないか」というような意見でございます。

対応といたしましては、「原子力政策大綱では、２－５－３「学習機会の整備・充実」に学習機会の多様化、充実に取り組むべきと示しております。原子力委員会としては、これを踏まえ、正確でわかりやすく、受け手のニーズに配慮した説明に努めることが必要であると考えており、ご意見を関係機関に伝えます」というふうに書かせていただいております。

放射線利用についてでございますけれども、「放射線の使用方法、安全性を明示すべ

き」。「暮らしに放射線は広く活用されているのに、一般に認知されていないのではないか。放射線の利用状況をもっとＰＲすべき」。「放射能等の害がなくなるまで何百年も要すると聞いており、安全管理は大丈夫か」。「がん治療、食品への照射、など色々な利用がなされているが、人体や環境に何らかの影響がないのか」。「人体に影響を及ぼさない範囲で有効活用すべきではないか」というようなご意見でございます。

これに対しまして、「原子力政策大綱では、３－２「放射線利用」において、放射線利用に関する来て考え方を示しております。また、原子力委員会は、これを踏まえ、食品専門部会を設置し、食品照射に関する現状等について調査審議を終え報告を受けたところです。これらの頂いたご意見について関係機関に伝えます」というふうにまとめさせていただいてございます。

最後、原子力委員会への意見についてでございますけれども、「規制行政庁の行う安全規制活動の更なる監視、監査や、新たな知見に基づく諸指針等の見直しと、これらの国民への解りやすい広報活動をお願いしたい」。最後でございますが、「原子力推進のため、より積極的な活動を期待。一般市民には原子力委員会がどんな役割を担っているのか分かっている人が少ないように思うのでもっとＰＲすべきではないか」。

これへの対応といたしましては、「原子力政策大綱では、第６章「原子力の研究、開発及び利用に関する活動の評価の充実」において示しており、原子力委員会自ら定めた政策の妥当性を定期的に評価し、その結果を国民に説明していくとしています」というふうにまとめさせていただいてございます。

一応、前回の札幌につきましての資料の説明は、以上でございます。

○木元座長　駆け足で説明していただきました。

あとは皆様のご意見を頂戴したいと思うんですが、この「ｉｎ札幌」に関して、まず司会をしてくださいました中村さん、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。今、こうやって大まかにまとめさせていただいておりますけれども、ご意見、ご感想をぜひお願いいたします。

○中村委員　皆さんのご協力で何とか終えることができましたけれども、委員長がもう少しフロアでご意見を聞きたかったなということをおっしゃったのが私も心残りで、ほとんど手が挙がらなかったというのは残念だったんですが、しかし、事前に百何十項目もご意見やご質問をいただいていたので、委員長はそれを大事にお持ち帰りになられたようなので、そういう点では座長がおっしゃる一般市民の方からの広聴という役割も、そういう形

だったけれども、受けることができたと。

それから、まあまあやはりパネリストの選定も妥当で、ご意見を伺うことができたという点では、本来の目的である市民の声をというのが、パネリストの口を通してでしたけれども、いろいろなご意見が伺えたのがよかったと、私自身も思っています。

それと、初めての試みということに多分なると思うんですけれども、今まではコアメンバーは発言をなるべく控えるように、議論はしないようにという進行をずっとしてきたんですけれども、今回は逆に積極的にコアメンバーは議論に参加してくださいという形でやってみたんですが、アンケート結果、どう受け取るかですけれども、賛否それぞれあるなという感じではありましたが、ただ、オーディエンスの方の受け取り方としては、コアメンバーも一生懸命になって議論をしたというのは、割に好印象を持たれたのかなという感じはしておりまして、一つのやり方としてこういう形も、何か見えてきたような気はいたします。

ただ、アンケートの中のご指摘もあったように、吉岡先生の欠席というのは非常に大きな穴であったと思いますけれども、やっぱりコアメンバーも自分のお考えをちゃんと述べる形にした方がいいのかなという感じもしましたが、これは多分ケース・バイ・ケースで、札幌の場合はなかなかオーディエンスからも手が挙がらないという予測を私はしていましたので、こういう方式が一応適当だったのではないかと思っていますが、会場によって、あるいは構成の仕方によっては、またコアメンバーはただ聴くだけという会もあるいはあるかもしれませんけれども、札幌については、その点は一応評価してもいいのかなという感じはいたしました。

ただ、議論そのものについては、やっぱりどうしても平行線になる部分というのはあって、そこのところはしようがないなという印象でしたけれども、進行役としてはコアメンバーの皆さんが非常に積極的に参加していただいたと。それでやっぱり活発な雰囲気が出たというのは、ありがたく思っております。

以上です。

○木元座長　ありがとうございました。

今日はご欠席なんですけれども、近藤委員長も札幌のご出身でありますし、中村さんもそうですし、私も北海道生まれということで、何か北海道がそろっちゃってルンルン気分が若干あったんですけれども、委員長はそういう意味で、１部もちょっとありましたが、２部の方でトリウムについてのご質問があったときなどは、出光先生とともに、かなりこ

の件についてレクチャーをいただきました。ありがとうございました。だから、トリウムについては私もあまりよくわかっていない部分があったんですが、コアメンバーの中で、随分「ああ、そういうことか」と我々が勉強したということもあったりして、非常に違う意味での効果がまた出てきたなという気もしています。ありがとうございました。

今、中村さんがおっしゃってくださいましたように、今回新しい試みで、前回、中村さん初めいろいろな方から、もう少し深める意見でも、少し交互にこちら側の意見も述べてみたらというのがありまして、大成功だったと思います。委員長は大変満足なさっていらっしゃいまして、活発にこうやったことで、実は討論して、この参加者のご感想の中にもありますけれども、大友さんだけがお１人、風力がいいとか、そういうお立場をとっていらっしゃったので、そのおっしゃっていることの意味を深めたり、「いや、それはこうじゃないか」とやりとりすると、何かどうしても１人にターゲットを絞ってやり込めているような印象が多くなったので、本当に吉岡さんのご欠席が痛かったなという気はしないでもありません。ただ、原子力、賛成、反対という構図で終始したという印象ではなかった。もう少し原子力というものを、放射線を含めて深めていくということにはなったのではないかなと。前回のご提案でこの結果が出たということで、私どもも、後で委員の方からも声があると思いますけれども、前回の原子力委員会の定例会議で評価したところでした。

順番にまたご意見を伺わせていただきたいんですけれども、いつも碧海さんから行くから、後ろから行こうかしら。そうしますか。

では、原子力委員は後でお願いするとして、東嶋さん。

○東嶋委員　司会の中村先生が大変だったかなと思いましたが、私自身は意地悪ばあさんみたいにちょっとやり込めちゃったかなと思って、すごく反省しております。ほかのコアメンバーの皆さんは非常にやわらかい語り口で、意見を引き出すような感じでお話しされていたんですが、私はちょっと何か熱くなってしまって、それは自分自身の反省点でありました。

それで、札幌の会で議論が活発になったこと自体はよかったなと思ったんですが、やっぱりコアメンバーの位置づけというのがちょっと難しいかなと思いまして、あの会のときにも私は、自分自身どういうふうに発言したらいいのかというのはちょっと迷っていたことがあったんですが、メンバーの人数が多いので、一人一人が発言する時間が畢竟短くなってきて、そうすると自分自身の意見を言うというよりは、ちょっとぽっぽっと何か声を出すぐらいのことになってしまいます。

ですから、コアメンバー全員が発言するというのではなくて、例えば今度、松江でやりますとして、パネリストの中にコアメンバーの代表じゃないんですけれども、メンバーの１人としてだれかに出ていただいて、そして何かコアメンバーの総意を反映するような、もっと話を引き出すとか、そういう目的でコアメンバーの役割をしていただける方というのがパネリストにいると、何となくバランスがとれるし、全員が一生懸命発言しなきゃというのでもないし、かといって、全員が全く発言の機会がないというのも寂しいというか、いる意義は何だろうと思ったりしますので、そこのところはパネリストとして１人入れるという案はどうかなと思いました。

それから、このアンケート結果の８ページで、「情報提供・収集のあり方」についてで「事前質問について具体的な一問一答があっても良かった」というご意見がございますけれども、やはり百何十件も質問なり意見なりを最初にいただいていて、それをシンポジウムの場面でほとんど触れなかったというのは、来ておられた方たちはちょっと残念だったかなと思いますので、その質問の中の代表的なことに関しては、ちょっとその議論の中で触れていただくとか、あるいはちょっとお答えをするとか、そういう機会があってもよかったかなと思いました。

○木元座長　以上でよろしいですか。

○東嶋委員　はい。

○木元座長　ありがとうございました。

それでは、ご出席になったコアメンバーで、小川さん。

○小川委員　中村先生と木元先生で一番最初にまとめていただいた中で、私は本当に全く同じ意見でございまして、それに対して大きくつけ加えることはないんですけれども、１つは技術的にマニアックな雰囲気があり、それにかなり時間を費やされてしまったなというような感じがありました。専門用語としてハイレベルな言葉がたくさん出てきたので、参加されている方々がちょっと手を挙げづらい雰囲気になってしまったのかなと思います。自分自身もそうなんですが、入っていけないような、例えばマンハッタン計画の情報がとか、あるいは実証可能な技術ではないとか、そういう「実証可能性がない」とかというような言葉は、市民の感覚としてはすごく難しいんじゃないかなと思うんですよね。そうした意味でちょっと生活の言葉とかけ離れている言葉をいろいろなところに出てきたので、気楽に手を挙げるような雰囲気が出なかったんじゃないかなというようなイメージを、私としては持ちました。

それから、コアメンバーは議論に参加してもいいというお話でしたけれども、私の発言としては、ほかの参加者の方のお話に関してちょっとコメントするぐらいにとどまってしまったし、時間もなかったというような感じがしましたので、限られた時間の中で建設的な議論をパネリストとコアメンバーがするというのには、かなり限界があることを感じました。

それから、資料第２５－２号なんですけれども、「市民参加懇談会ｉｎ札幌」で頂いたご意見の整理というのは、これはすごくまとめられていますが、当日出た百四十何項目かを項目別に分けて、それで書かれたということと理解してよろしいですか。

○木元座長　はい。

○小川委員　その対応の中で、１番目、２番目、３番目までは、「大綱ではこうです」、「大綱でこういうふうに書かれています」と。それからその後半は、「原子力委員会としては、これを踏まえ、正確でわかりやすく」というのから先は同じ言葉がつながっているんですが、これはちょっと意地悪な言葉で言えば、木で鼻をくくったような答えになっていると思います。もしこのご意見をされた方がこの対応を読んだらどういうふうに思うかな、「随分冷たい答えじゃないか」、そう思うんじゃないかなというのをこの資料の中でちょっと感じました。

以上です。

○木元座長　本当によく言ってくださいました。私も、それは気がついてはいます。前例に倣ってという書き方が、どうしてもこういうお役所の文章の中には出てきやすいので、それは要注意だなと思っています。「何々したいところ」とか、客観的にそれを見ていてあって、自分が本気で顔を見せて言っているよというのがあまり伝わってこないので、それを許される範囲内でお答えできる形がとれればいいんじゃないかなと思っています。

○西田補佐　はい。

○木元座長　よろしくお願いします。

○小川委員　大変だとは思うんですけれども。これだとちょっと「えっ、何？」みたいな。

○木元座長　だから、何かつれっと来て、つれっとここを通して、「はい、そうしましょう」というふうに見えちゃうでしょう。確かに、「原子力政策大綱ではこうこうこういうことをちゃんと押さえていますよ、だからこうしますよ」と。その「だから」が、もう少し伝わるような形になればいいんじゃないかなと思うんです。

○中村委員　このご意見の整理、対応というのは、これもホームページに載せるんですか。

○木元座長　これは載せる予定ですね。

○中村委員　載せる予定だったら、小川さんの言うとおりですね。

○木元座長　そうです。これは、今日ご意見をいただいて。

○中村委員　載せる前に、大分整理を考えた方がいいですね。練った方がいいですね。

○木元座長　そうしましょう。似たようなご意見も出てくればありがたいなと思いますが、ありがとうございました。

　では、岡本さん、今まで聞いた中で何かご感想があれば、順番に行かせていただきます。

○岡本委員　割合、まとまっている感じを持ちました。必ずしも賛成でない方の意見表明も、割合、秩序立てて行われたのかなという感じを持ちましたので、何かとてもうまくいったのかなと。それから、アレンジメントがよかったということはちょっと書いてありましたよね、レベルがそろっていたと。だから、そういう物理的な要因も割合大事なのかという印象を改めて持ちました。

○木元座長　今度、ぜひご参加ください。ちょっと今回は、遠かったですけれども。

○岡本委員　はい。

○木元座長　ありがとうございました。

　では、井上さん、お願いします。

○井上委員　事前に１４０件ぐらいの質問が出てきていたのなら、会場にいる方は、どんなのが多かったのかとか、粗いまとめでもいいから何かそういうものを、パワーポイント、スクリーン表示でもいいし、紙でもいいし、そういうのがあると会場にいて質問しなくても、「ああ、私もこの意見よ」、「私はこれに近いわ」というような近づきができたと思うんです。「ありました」だけでは、内容と、それからどういう意見がやっぱり多いのか少ないのかなどわかりません。内容の内訳が同じボリュームで出てきているとは思わないんですね。非常に多い意見、それから特異な意見、少ないけれども珍しい意見というのがあると思うので、そういうものを会場にいる者も、私たちも共有していくものがその会場であればいいなと思いました。

　それから、会場の運営とか雰囲気とかではないんですが、１人の人に対して、つまり、大友さんに対して聞きたくなることがどうしても出てくるから、みんなで聞くと１０対１のような感じになっちゃったかなと思うんですけれども、でも、個人的な感想で、皆さんはどうかな、どう思われるかなと思いますけれども、３０年前に１つの価値を決めて、３０年間揺るがないという、これは一体何なんだろうと、思いました。科学とか技術とか研

究者の方の進歩が、表現されなかったのか、受けとめられなかったのか、受けとめることを拒否されたのか、本当は進歩がなかったのか、大友さんも技術者か、研究者ですよね。だから、全く知らない世界の方ではない方が、そういう３０年間こう決めて判断したことを、今日に至ってもそういう価値で発言されていかれるというのは何なんだろうと、是非聞きたいなと思ったけれども、聞けなかったことです。

○木元座長　そうですね。多分、あのときもおっしゃっていたけれども、最初、原子力派だったんですね。大友さんは、原子力の技術の勉強をしていらしたんですけれども、勉強していくうちに、これは成熟した技術じゃないとか駄目な技術だということで、やめて風力にかわったと、あっさり言えばそういうことなので、そこのところをもう少し聞いてみたいですね。実証できないとか何とかということも後でおっしゃっていたし、あそこを突き詰めていくと、原子力発電というものの存在の是非論みたいなことまでいくのかなとは思ったんですが、あのときのあの日のテーマは、原子力に関する情報、あなたの知りたい情報はちゃんと届いていますかというのが大前提だったので、そこまで突っ込めないなという気は私もしていたし、中村さんとはそういう雰囲気で私もやりとりしていたような気がします。

○中村委員　でも、その機会を設けたら、もうこのアンケートの結果というのも、「何だ、つるし上げに来たのか」というふうになりかねなかったと思って、やっぱり逆にちょっと古典的であり過ぎるんですよね、大友さんが、いわゆる反対という姿勢がね。だから、これ以上踏み込んだら、この人、崩壊してしまうしかないなと思ったので、僕もそれ以上はやらなかったんですけれども。

○木元座長　後で本をいただきましたけれども、技術論はちゃんと展開していらっしゃるんですが、私も専門家じゃなくてよくわからないんですが、お聞きしたいことはかなり出てきますよね。「じゃ、これはどうだったの」という部分が。だから、それをやったら大変だったかもしれない。吉岡さんがいれば、また変わったかもしれないけれども。

○中村委員　吉岡さんがいれば。

○木元座長　今度、是非また対決を。

○中村委員　大友さんというパネリストが、技術論、システム論、技術哲学みたいなところに立っている人なので、まともに話ができるのは、本当に専門分野からいっても、吉岡さんがいらっしゃればという感じはしましたが、でも、公務のため欠席ですものね。しようがなかったですけれども。

○木元座長　でも、いろいろな意味で物事が見えてくるような気がして、非常に深いパネルディスカッションでした。それでは、出光先生、お願いいたします。

○出光委員　中村さんの司会は大変だったと思いますが、最初に質問を振られたときの大友さんのその前の発言が、私はよく理解できなくて、何かとんちんかんな答えをしてしまったかもしれないですが。あとは、ちょっと「安全、安全」と言い過ぎているのかなと、佐藤のりゆきさんの発言を聞いて思いました。やっぱり説明の仕方を考えなきゃいけないなというふうに反省はいたしました。

資料第２５－１－１号の３ページ目、３つ目のスリーマイルアイランド事故云々のところですが、これは修正していただければお願いしたいんです。１行目で、「第３の容器が溶けた炉心を閉じ込めた状態で」というところですが、語順を入れかえていただいて、「溶けた炉心を第３の容器が閉じ込めた」というふうに変えていただければ。何か、これだと第３の容器が溶けたように読めますので、ちょっとここだけ入れかえをお願いします。

あとは、会議の方ですが、私もこの市民懇の役割がまだいまいち理解できていないところはあるんですが、参加者１２０名で、プレスの方が来られて、プレスでどういうふうに北海道の方で周知されたのかとか、そこら辺の情報がもしありましたら教えていただければなと思います。

○木元座長　私の知り得た情報というか、原子力委員会でご報告された状況というのは、いわゆるメインの新聞はありません。電気新聞がキャリーしていました。それから私個人には、読売新聞の札幌にいらっしゃる方が、別の記事で取材にいらした方なんですけれども、ちゃんといらしてくださって、機会があったら書きたいとはおっしゃっていたんですが、まだ出ていません。でも、何らかの形でご関心をお持ちいただけたメディアの方はいらっしゃったという感触でした。少し周知徹底が足りなかったのかな、もう少し積極的にやればよかったかなと、反省はしています。

ありがとうございます。出光先生、ほかは。

○出光委員　以上です。

○木元座長　よろしいですか。

では、新井さん、お願いいたします。

○新井委員　もう皆さんから意見が大体出てしまっているようなので、あまり言うことはありませんけれども、消費地で開いた会で私が参加しているのは、埼玉でパネリストに出させていただいて、あと福岡、今度の札幌と、私は３度目だったかもしれませんが、比較

感でいうと、結構、札幌はうまくいったといいますか、なかなか会場の雰囲気がよかったのではないかという気がします。理由はわかりませんが、埼玉のときは若干、東電の不祥事事件を受けて、東電の方の説明がやたらと長くて、何となく白けたような感じでしたし、福岡の場合も結構プルサーマルの問題もあったりしてそこそこではあったんですが、札幌の場合は問題がほとんどないような状況の中で、これは大友さんがいたということであるんでしょう。比較的、会場の雰囲気というのはおのずから出てくるわけで、今回の札幌の場合は、全体としては、我々も参加したということもあるのかどうか、そこのところはわかりませんけれども、盛り上がりと言うのはなんですけれども、結構緊張したような形でのやりとりができていたのではないかというような感じがします。

ほか、いろいろの指摘がありましたけれども、この形式でやっていく以上は、ある程度この種の限界は、いろいろなことが指摘されましたけれども、コアメンバーのあり方などもなかなか難しいので、どこまで参加していいのか、私自身もちょっと反論したいようなところもありましたけれども、これはこんなことをやっていたのでは時間を食っちゃってどうにもならぬなというところが出てくるので、それはそれで仕方がないのかなと思いました。これ以上時間をとってはやや長過ぎるでしょうし、いい形で開かれたのだというようには思います。まだ工夫する余地はあるのかもしれませんが、一つのいい例になるのかなという具合に受けとめました。

以上です。

○木元座長　ありがとうございました。

それでは続いて、浅田さん、お願いします。

○浅田委員　コアメンバーとしては、初めて参加させていただきました。それまで、一般の参加者として聞かせていただいたこともあったんですが、そのときはコアメンバーの方はご意見を伺うという姿勢であったために、どこがポイントになっているんだろうか、こんなふうに言いっ放しでいいんだろうかという、ちょっと物足りなさを感じていました。今回はコアメンバーで参加したので、そういう意味では正確な判断はできていないかもしれませんけれども、こういう方がある程度はっきりしておもしろいというか、聴衆の方たちはその都度、切実に聞けたのではないかなと思います。そういう意味で、よかったのではないかなと思います。

姫路の場合は、コアメンバーの方たちは比較的ご意見が少なかったんですが、でも、パネリストの方にかなり対比的な意見がありましたので、それはそれで代行できたのではな

いかと思います。それぞれのパネリストとの対比によるかと思いますが、今回の札幌は、私の今までの経験からいって、よかったのではないかと思います。

そして、お１人の方をやっつける形というよりは、その方のいろいろな部分を気がついた人たちが質問することによって、一般の方たちと共有するというんでしょうか、そういうふうにとらえていきたいなという気がします。やはり比率的には、こういう形になる可能性は大きいのではないかと思います。

それから、もう一つ感想ですが、これは懇談会とは全く別なんですが、あそこで「六ヶ所村ラプソディー」のお話が出まして、私は先週土曜日に見てきました。鎌仲さんという監督の第１作目の「ヒバクシャ」も見て、今回は第２作目を見ました。始まる前に２回とも対談があったんですけれども、なかなか観客を引きつけるトークがあったんですね。それで、監督自身の、１作目から２作目について、かなり視点が変化しているなということを感じました。今回は、監督の価値観を出すというよりは、むしろその判断はお客さんに投げているというところで、随分変化があったのかなというふうに思いました。「ラプソディー」の話が出ましたので、ついでに感想を申し上げました。

○木元座長　ありがとうございます。

女の方ですよね、あの監督さん、鎌仲さんは。

○浅田委員　はい、そうです。

○木元座長　それで、変化をしたというのは、非常に視点というか視野が広くなったということになりますか。

○浅田委員　そうですね。はい。そういうふうに思いました。

○木元座長　今までは大変、私も何回かお会いしているんだけれども、もう信念を持っているから、どうしても狭い目で見ていらっしゃったので、「違う、こういうところはどう？」とやり合ったこともあるんですけれども、それがちょっと広くなってきて。

○浅田委員　はい、そう思いました。前回は、彼女なりのストーリーというのがあったとすごく思いましたけれども、今回はそういうのではなくて、２つが対比されている。その中に、迷っている自分がいる。だから、その迷いをそのまま皆さんにお預けするので判断してくださいねと、そんなようなメッセージに感じました。

○木元座長　ありがとうございました。

余談の方に走って申しわけないけれども、何かいろいろな主張をなさる方で、本当に聴きたいなと思う意見があるんですけれども、何か相手を洗脳しようということが推進派に

も反対派にもあるという、それはよくないので、そうじゃない方向に今進んでいるというふうに受けとめていいですね。ありがとうございました。

碧海さん、お待たせしました。

○碧海委員　私は、会場の参加者に、一般市民の性格が強い人たちがもうちょっとたくさんいたらよかったなという。やっぱり関係者が多いという印象をどうしても受けましたので、もう少し生活者がいたらよかったなという意見ですけれども。

○木元座長　女性が少なかったですよね。

○碧海委員　ええ、女性も少ないし。

私は、コアメンバーがああいうふうに意見を言うというのは、悪くはないと思うんですが、この市民参加懇談会ではなくて、大阪でやった食品照射のご意見を聴く会、あのときは委員会の委員が結構答えたり、意見を言ったりしましたね。あの場合は、食品照射という割合と絞られたテーマなので、そういう意味では結構よかったと思ったんですが、今回の場合は、やはりコアメンバーの人数がいかんせん多いから、この調子で今後もコアメンバーがみんな意見を言う形になると、参加者の中から意見を言いたい人が特にたくさんいるような場では、ちょっと無理だろうなという気がするんです。

ですから、東嶋さんが言われたようなパネリストに代表を交代で少し含めるとか、それからそうじゃなくても、サクラと言ってはなんですが、ある程度、最初からコアメンバーの発言を少しチョイスしておいてやるという手もあるかなという気がしました。特にこの間、私などは大友さんに「そちら側はみんな推進派でしょう」と言われたので頭へきちゃって。頭へくるのはいけないんですが。そうすると言いたいことはいろいろあるわけですよね。でも、そういうことはコアメンバーとしては、これは言ってはいけないとかいろいろありまして、なかなか自分の発言を整理するのが難しかったという気がします。

１つ残念だったのは、第１部の終わりのところで、少し技術的な専門的な話が多くて、会場の参加者が少しわかりにくいんじゃないかなという気がしたものですから、それで３人のパネリストにそれぞれ、特に大友さんが断熱材のことを言われたので、私はもう少し大友さんがそういう分野でも実践していらっしゃるのかなと思ってああいう質問をしたんですが、残念ながら、のりゆきさんから「反省しています」という意見があったくらいで、大友さんは自転車で通うみたいな話になってしまったし、北大の佐藤先生もあまりそういう意味では具体的な話をしてくださらなかったので、もうちょっと一般の生活者が特に参加者の中にいる場合には、もう少し自分たちの生活に近づける話があってもいいのに、こ

の間はあまり答えてくださらなかったという感想でした。

以上です。

○木元座長　ありがとうございました。

吉岡先生。

○吉岡委員　欠席の吉岡です。

この市民参加懇談会のコアメンバー会議及び各地でのイベントは今まで皆勤だったんですけれども、今回は残念ながらどうしても都合が合わずに、欠席のやむなきに至りました。なぜこの日がだめだったかというと、入試の面接でありまして、複数名を担当するというので、入試というのはやっぱり大学で一番重要な用事なので、授業なら、代わりの補講をするという対応はできるんですが、こればかりはどうしようもなくて、残念ながら休んだところ、今日の話にも、私が出ないのは残念だというのが出たし、アンケート結果にも「バランスを欠く。（吉岡氏が欠席したことも助長したか？）」とか、そういうようなことが書いてあって、実際、壇上の方々のうち今の原子力政策に好意的な人が１０名で、基本政策レベルで反対する人が１名だという１０対１のバランスだったようで、その点では、私のせいじゃないですけれども、私が出ないことによる結果的な責任というのは、やや否定はできないと思います。

それで、議事録がないので読んではいないのですけれども、まだ２週間しかたっていないので、今、作成中なんでしょうけれども。これを見た感想では、何か低調だなというような感想があります。参加者が、１２０人で、しかも４、５０代男性が圧倒的に多い。新聞にも載らないというような、今までの中で一番、人数とメディアの対応ということでは低調なのではなかったかと思います。

今回は出ておりませんけれども、近藤委員長が前回、市民参加懇談会はアンテナショップなんだというようなことを指摘されて、いい表現だなと私は感じたのですけれども、アンテナショップに入る客が少なくて、物が売れなかった。発言がなかったというのは、物が売れなかったというようなことであって、その点では反省する点が多いと思います。

それと、私が前々から言っているのは、ちょっと皮肉を込めて言うと、ＱＣをやっていくための素材探りというのがこの市民参加懇談会の役割です。基本政策は変えなくてもよいというか、基本政策を市民参加懇談会をきっかけに変えるというのは想定されていないことだと思いますけれども、小さい改善事項というのは多々あるはずでありまして、そういうところに市民の意見を活用できたら参加感が高まっていいなというように思っていた

んです。しかし、ご意見の整理というところを見てみると、物すごく抽象的であって、具体的にどうしろとか、そういうところが全然語られていなかったので、私の言うＱＣ的機能という点でも、有効に機能できなかったというような気がいたします。

若干、補足をしてすみませんけれども、大友さんの認識が３０年間の変化がなかったと言いますが、高速増殖炉政策は４０年間変化がなくて、最初の１０年で「もんじゅ」が動いているはずだったんですけれども、その後３０年間たってもまだ運転していないというような、４０年間変化がなかった方も問題なのではないかという気もいたします。

それと、鎌仲さんだけれども、カナダで随分映画の修行をしたそうで、ドキュメンタリー映画の土本典昭とか、そういう本格的な監督とサシの勝負をして、映画に取り組む根性はとても据わった人だと感服するのですけれども、たしか去年あたり、肥田さんという広島県の医者と低線量放射線影響の問題点に関する本を書いていて、あれには原子力はいけないという立場が明確に出ていたので、それと映画の表現方法とは恐らく違うんだろうなというふうに浅田さんのお話を聞いていて感じました。

以上です。

○木元座長　それでは、当日、札幌に参加した原子力委員が今日は出席しておりますので、齋藤委員長代理からお願いいたします。

○齋藤委員長代理　ありがとうございます。

今、コアメンバーの委員の方々からいろいろなご意見が出まして、皆様おっしゃること、一つ一つ私は全くごもっともだというふうに感じておりました。

総体的にはやはり何人かの委員の方がおっしゃったように、もう少しフロアから意見が出ることを私も期待していたのですが、お二人だけになってしまったというのが非常に残念だったなという感じはしております。それに対して、事前に質問が来ていたので、それを読み上げて、そこでまた議論をしていただくというのもフロアの意見をもう少し沸騰させるためには一つの手であったのかなという感じもしました。

それから、大友さんに対し、１対１０という感じ、これはやはりどうしてもあの場にいたときにはそういう感じはいたしました。吉岡先生がいらっしゃったら、また雰囲気が違ったと私も思います。また、最初のセッションで、大友さんのご主張の安全技術の実証と言うのが必ずしも明確な論旨になっていないが、要するに、極限的な事故について原子力以外がすべて実物で実証可能であるけれども、原子力だけができないとか何かそういうようなことをおっしゃっていたのかと思います。私に言わせれば、それなら新幹線を時速２

５０キロで走らせて衝突実験みたいなことをやっていますかといったら、こんなことはやっていないわけであります。そういうところを比較しながら巨大技術について実際に実物で本当に大事故を起こさせることはほとんどのものはできないので、それをシミュレーションするような形、あるいは小型のものから順を追って安全性を確認しながら、原子炉の場合は大型の原子炉を作っていくというようなプロセスでやっているということをご説明していただくと、一般の方が聞いていて、比較的短い時間でご了解、ご理解いただけたのではないかという感じがしたところであります。

いずれにいたしましても、今委員の方々からいろいろなご意見ございましたので、この辺を踏まえてまた次回にいろいろと活用して、より良いものにしていただければ幸いであると思います。ありがとうございました。

○木元座長　ありがとうございました。

町委員、よろしいですか。お願いいたします。

○町原子力委員　ありがとうございます。

私も、今回はこれまでのやり方と違って、対話形式で、コアメンバーとパネルメンバーの方々とのやりとりがあったことが、全体の雰囲気を盛り上げてよかったかなと思いました。

このアンケートの６ページにも大友さんのような意見の方を２名パネリストとしてお願いしてはどうかという意見がありましたが、パネリストのメンバー３人というのは少なかったという感じがしました。

それから、生活者の参加が少ないというのは、私もそういう感じを持っていまして、関係者も大事ですが、市民の方々にこういう議論を聞いてもらって、考えていただくということが、市民参加懇談会の目的でもあるので、今後、事務局としてやはりどうしたら一般の市民が来られるようにできるかを是非検討する必要があるという感じがしました。

それから、大友さんの例の実証試験云々の話は、彼が言った意見に対して、事務局として何かレスポンスができるような紙をつくって送る必要があるのかなという気はしました。そうしないと、進歩しない。もちろん簡単に考えが変わることはないかもしれないけれども、そういう努力はする必要があると思いました。

今回は、特に出光さんなどの専門の方も参加していただいたのが非常によかったと私は感じました。

以上です。

○木元座長　ありがとうございました。

前田委員、続けてお願いいたします。

○前田原子力委員　大体意見は出尽くしたような気がしますけれども、私、今まで参加した市民懇談会の中で、姫路と今回の札幌が私の印象としては非常に活気があっておもしろかったと思っています。理由は、札幌の場合は、先ほどから言われているように、パネリストとコアメンバーのやりとりということが非常によかったんでしょうし、姫路の場合は、さっき浅田さんもおっしゃったけれども、パネリストの数が多くて、そのパネリスト間で非常に本音の議論があったということがおもしろかったと思います。

そういうことがアンケートの中にもたくさん出てきていると私は読んでいまして、ああいう場所へ、どういう動機で来られたか知りませんけれども、来て議論を聞いておられた方が、姫路と今回は非常におもしろかったという意見が多かったように思いますから、それはこれからの市民懇の運営で参考になると思います。

ただ、先ほどから出ているように、フロアからの発言が少なかったのが残念だ、これは確かに残念は残念ですけれども、姫路の場合はたしかフロアからの議論は聞かなかったと思うんですが、今回の札幌のアンケートを見ていまして、会場からの意見が少なかったとか、もっと聞いてくれとかというアンケートの意見は一つしかないんですよね。これは、会場からもどんどん意見を聞きたいという事前の趣旨がもう一つ浸透してなかったのか、あるいは今回来てくれた参加者の階層、グルーピングがそういうことだったのか、これはよくわかりませんが、やはりこれも事前の市民懇参加者に対していろいろ情報を出しながら、こういうことを期待していますということをもう少しよくわかるように事前に伝えておくということが必要かなという気がしました。

それから、このアンケートを見ていて、専門用語で言葉が難し過ぎるというのがたくさんあるんですね。これは原子力の議論をするときはいつでも出てくるんですけれども、市民懇の議論というのは、割合今までどちらかと言えばわかりやすい言葉でしていたような気がするんだけれども、これだけ専門用語が多い多いという意見が出てくるというのは、ちょっと我々も反省をしなきゃいけないのかなという感じがしております。

大体そんなところです。

○木元座長　時間も時間ですので、一通り「ｉｎ札幌」のアンケートを含めて、それからその後の感想も含めて皆様からご意見いただいたんですけれども、何か今回の札幌に関して、これだけはもう少しフォローしておきたいというのはありますか。何人かの方がおっ

しゃってくださいましたけれども、そのテーマが原子力に絞られて、しかもとても大きいもので、原子炉に関する情報ということでくくってしまったので、それはいろいろな情報がそれぞれであるので、広げていることは事実なんですね。ですから、まとまらないし、何か放射線なら放射線利用ということだと、かなり絞られるんですけれども、そうじゃない漠然としたところがあったので、賛成、反対に終始してしまったり、新しい技術論に展開してしまったりというようなことで、新エネも入ってきたりということで、ちょっと広がり過ぎた嫌いは当然あると思うんです。だから、それを次の会にテーマをどうするか。例えば原子力情報について知りたいものは何かといった場合に、原子力情報の何についてということを入れるか入れないかとか、そういうこともご議論の対象になるのかなという気がしています。次のステップでそれは考えたいと思います。

それから、町委員からご提案があった、大友さんに対してレスポンスするかというのは、それは委員会としてはできないだろうなと思います。委員会というよりも市民参加懇談会の立場としてはできないだろうなと。もしご依頼してどなたか、あるいは近藤先生なりがお答えになるということであれば、個人的にやっていただく以外方法はないんじゃないかという気がしています。事務局の手が回らないと思うの、正直な話。だから、今度もし、そういう立場で吉岡さんがいらしたら、吉岡さんに頼むとかね。今回は残念でしたけれども。そういうことがあると思うんです。

中村さん、何か。

○中村委員　難しいところがあるんだけれども、ただ雰囲気づくりは、事務局、現場を担当された方に感謝をしたいんです。我々にとっては、ああいうロの字になってオーディエンスを周りに置いてというのは前からやってきていることなんで、新鮮味は別ない、一つのパターンというふうにしか思ってないんですけれども、札幌でああいうのは多分珍しくて、これにも新しい形式なんていうアンケートがありましたけれども、会場設営の雰囲気は悪くなかったというふうに思うんです。それは、パネリストが少なかったから逆に言うとああいう形でできたというところもあって、パネリストが倍以上の数だとすると、逆にコアメンバーは半分にしないと、ああいう雰囲気でのやりとりにはならないんで、その辺、多分開催地によると思うんですよ。今回の札幌について、フロアからご意見が出なかったとか、いろいろな部分の反省点の部分というのは、今座長が言われたテーマも絞った方がよかったのかしらというのは逆でして、札幌の場合はどう絞ってもあんなものですよ。というのは、ないんですよ、今。目の前に何か、それこそこれを知りたいとか、これはどう

なっているんだというのがないんですよ。

ですから、泊とか岩内でやるんなら別だったんですけれども、札幌はほとんど東京と変わらないぐらいの感覚の消費地ですから、この後議論になるのかもしれないけれども、例えば松江というのを考えると、あるわけですよ、ここは。プルサーマルももちろんあるけれども、それ以上に活断層の問題があるわけですよね。だから、そういうのを持っているところというのはまた全然反応の仕方が違ってくるんですよね。

札幌の場合は、事務局、苦労されたと思うんですけれども、大友さんを引っ張り出すだけでも精一杯だったと思うんですよ。よく大友さんに登壇をお受けしてもらって、あれだけ活発な発言をしてもらったというので、事務局、本当にご苦労さまだったと思うんです。ああいう方を２人とか３人とか用意するなんていうのは、今ほとんど不可能ですから、日本国中どこへ行っても。お一人確保するのも本当に大変なことで、ちょっと途中被害妄想みたいになったかもしれないけれども、堂々と自分の意見を言える、ああいうお立場を貫く人というのは、本当に今人材がいなくなっていて、だからパネリストの数を増やせばいいというものでもないんですよね。

だから、活性化というのは本当に、特にフロアからの活性化というようなことを考えると、とても難しいところなんですが、札幌の場合は確かに数はたくさん寄せられていて、半分ぐらいはご意見なんだけれども、疑問点についてはある程度やはりパネリストの３人のお話とコアメンバーとのやりとりで解消された部分もあったんだと思うんですよ。あまりしつこく、どうだどうだとやらないようにしたんで、もう一歩僕が、どなたかおっしゃったように、事前の意見を呼び水にして、さらにご意見ありませんかとやれば多少は変わったのかもしれないんです。その辺は私も反省する部分はありますが、非常に難しい開催地であったということも確かですけれども、雰囲気づくりは本当に事務局ご苦労さんだったんですが、アンケート結果にあるように参加人数が少ない割には雰囲気はよかったというか、ああいうところでの白熱した議論を多分札幌の人は聞いたことがないんですよ。そういうのは好印象を持たれたかなと思っています。

○木元座長　そうですね。後から北海道新聞関連の方に伺うと、問題は全然なかったですねとおっしゃって、これが大喧嘩になってもめれば記事になるんですけれどもねというような印象でしたね。だから、なだらかに、至って良識的に進行したという印象だから記事にはできなかったということなのかもしれませんけれども、いろいろ反省点を今日出させていただきました。

○中村委員　別な話なんですけれども、新聞報道というのは２０％ぐらいしか認知率がないんだけど、告知って北海道新聞に出したんじゃなかったでしたっけ。出しましたよね。
○木元座長　出しましたね。
○中村委員　道民ペーパーで一番発行部数、講読数が多い新聞なんですけれども、広告局と編集整理は別ですけれども、広告出したんだから、こんなことがありましたの３行ぐらい書いてもいいと思ったんだけど、目を皿のようにして見ましたけれども、翌朝１行も書いてなかったですね。これも何か裏で手を使う手はないのかなと思いましたけれどもね。
○木元座長　あらかじめお話しした方がよかったかもしれませんね、もう少し。
　いろいろな反省材料が出てまいりました。
　時間も時間ですので、次のテーマ、アンケートのこと、それから当日の感想のことなどいろいろご質問、ご意見も出ましたので、これも踏まえまして、またまとめさせていただきたいと思います。特に質問に関しての対応のお答え、ここのところはきちんと私どもで精査いたします。
　それでは、１枚紙になりますけれども、資料第２５－３号になります。
　次回の市民参加懇談会について、開催日時が今年の１２月上旬ぐらいでいかがでしょうかと。開催場所は、事務局案として申し上げているんですが、島根県の松江市ではいかがなものでしょうか。テーマは、札幌と同じなんですが、「原子力～知りたい情報は届いていますか～」と。札幌方式の開催方法でいったらどうか、あるいは地元住民からの意見発表。御前崎方式というのは、それぞれの地域のお立場ということでパネリストが８人ぐらい出ました。これも一つの手だなと。ましてそういう課題を抱えているところであれば、なおさらそういう立場がいいだろうと。
　福島もそうでしたね、富岡でやったときも８人のパネリストがお出になったということがあります。その辺を少しご議論いただければありがたいと思います。
　今年いっぱいに一つ市民懇を開催したいという希望がございますので、１２月上旬というのでいかがでしょうか、時期的にちょっと頑張りますけれども。させていただけるとして、また日時、場所、その他は詳しくはやりますけれども、一応私どもの考えとしては、島根県松江市、これは日本で原子力発電所を持っている唯一の県庁所在地ということになるんです。現地の鹿島町とかでやる手もあるんですけれども、松江の方も今、中村先生おっしゃっていただいたように、プルサーマルの問題もありますし、それから一つの大きな耐震関係のこともありますし、地元では原子力に対する関心は大変高いと考えます。です

から、パネリストの方、それから進行の仕方、それをきちっとしなければいけないと思います。

その辺を十分にご意見出していただければと思いますが、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

○新井委員　今までの意見の流れから言うと、地元住民からの意見の発表、御前崎方式ということになるのとは違うんですか。

○木元座長　テーマ。

○新井委員　ですから、都市型のではなくて、立地点でやってきている方式でやるということになるのと違うんですか。それが一番いいのかということにならないんですか。

○木元座長　いいとも思いますね。

○新井委員　札幌形式でやればいいのでは。

○中村委員　ただ、ちょっと微妙なのが、松江市というのは町村合併で立地になったところなんですよ。御前崎方式で知りたい情報というなら、やはり本当の立地の方がいいように私は思うんですけれどもね。

○新井委員　ただ、あそこは札幌とは少し違うんじゃないですかね。

○木元座長　松江が。

○中村委員　松江ですか。

○新井委員　ええ、松江の場合は。

○中村委員　札幌とは全然違います。

○新井委員　違うでしょう。

○中村委員　この間のプルサーマルも１，０００人ですからね、参加者は。

○新井委員　ですから、おのずと結論が出ているのかなと私は思ったまででして。

○中村委員　ただ、どうですかね。あとはパネリストを御前崎方式で揃えられるかというのがちょっと僕はわからないんですけれどもね。

○木元座長　だから、それが８人と先ほど申しましたけれども、数字にあまりこだわらないで、いろいろなお立場あるいは会派がある、議会でいっても。その会派を踏まえながら、一人ずつ出ていただくか。

北海道でやった３人も、本当にさっきご苦労があったとおっしゃってくださいましたけれども、大友さんまで辿り着くのに何人当たったか。つまり、明らかに否定的なお立場で原子力情報が語れる方というので。何人か最初に北海道で有名な方に当たって、みんな断

られましたね、考え方が違うからというような意味合いを込めて。大友さんは、しっかり受けとめてくださったので、これは本当に感謝しています。

それから、佐藤のりゆきさんは、テレビのキャスターをやっていて、ご自分でもおっしゃっていたけれども、中立の立場をとっています。だから、いいものはいい、悪いものは悪いとはっきり言う方。もう一人の佐藤先生は推進派と、これははっきりしていました。そういうふうに明確に分けられるような立場でお選びするのか、あるいは松江という地域の特性からいって、あるいは問題を抱えているところからいって、それぞれ考え方のお立場の違いを明らかにするために何人かそろえた方がいいのか。３人でうまくこなせれば３人でもいいし、それは難しいということになりますね。

吉岡先生。

○吉岡委員　たまたま一昨日ですが、上関関係で長島の自然を守る会という人たちがいます。私も支援をしているところですけれども、その会が東京であって、非常に盛り上がっておりました。また、明日、広島で核被害想定専門部会というのが設置され、核テロが広島に起こった場合、どのような被害が起こり、どのような対策をとりうるかを検討する会を秋葉市長が設置したのですが、広島にも人はいるような気がします。

ですから、島根県、あるいは松江でパネリストを揃えるということをやらないで、広島や山口とかも考慮すればパネリストの人数は複数確保できるんじゃないかと私なぞは思います。

○木元座長　複数確保できるという意味は、吉岡さんは多くていいという、８人ぐらいでいいというお立場で。

○吉岡委員　はい。

○木元座長　今８人の声もありましたし、いかがなものでしょうね。

○中村委員　それは形式はいいんですけれども、それは松江がいいか。実はこの間プルサーマルで１，０００人と一緒にやってきた出光先生のご意見を。松江はどうでしょうね。

○出光委員　ちょっとどういうふうになるか予想もつかないんですが、松江市内にもかなりはっきりと反対の意見をお持ちの方はいらっしゃいました。

○木元座長　反対の中で、例えば原子力発電に真っ向から反対だという方と、原子力発電はいいんだけれどもプルサーマルは嫌だとか、原子力発電は認めるけれども耐震性に不安があるとか、いろいろ反対の中でもばらけます。

○出光委員　耐震性は皆さん反対の方で、プルサーマルも反対の方が多かったですね。た

だ、どんな方なのかいまいちよくわからないんですが、そういう方が複数名はいらっしゃいました。ちょっと名前までは私は覚えてないんですけれども。

○中村委員　あの人たちは大阪弁の発言だったんで、松江の人たちが、あの人たちは松江市民じゃないよということを後で言ってたんだけれども、松江に今住んでいるのかもしれないけれども、外様の人たちじゃない、あの人たちって。

○出光委員　１人は松江の人らしいです。後の人で、質問していた。

○中村委員　男女がいたでしょう。

○出光委員　ええ、あの２人の方はどうも外じゃないかという話でしたけれども、その後ろについていた女性の方は松江市の方です。

○中村委員　あの人はそうだね、松江の主婦の人みたいだった。

○吉岡委員　いいですか。

どうも人の顔を、党派が違うと認識できないという嫌いはやはりあるようで、私はそういう人たちを前に講演とかやったこともありますけれども、２桁の数ちゃんといます。女性が多いんですけれども、男性もいるというような形で、ちゃんと松江あるいはその近郊に住んでいる人たちが存在はいたしますし、すぐにでも連絡はとれます。

○木元座長　この場合、テーマから押していって、その人数も決まるということもあると思いますので、やはりここのペーパーに書かせていただきましたけれども、原子力委員会というものは耐震性について、それを論ずる、対立関係を論ずるという会ではないし、ましてや市民参加懇談会ではそういうことなので、やはり情報をとるという立場で開催させていただく。

そうすると、例えば耐震の問題が出たにしても、地震についての情報というのは知らなかったと。安全委員会が今度また耐震設計の見直しをしたり何かやって、ペーパーを出したじゃないか。あのことだってよくわからないという、そういうことを言ってほしいわけです、できれば。そうすると、どういう情報がどんなふうに伝われば、それが自分たちが判断の材料になるのかということもわからないですよね。北海道では、あまりそういう具体的なことは出なかったんですけれども、何かプルサーマルの件に関しても、プルサーマルというのを一番最初に市民参加懇談会を刈羽でやったときに、プルサーマルって説明に来てくれると思ったというふうに言われたことを覚えていらっしゃると思う。そういうふうに、私たちが届いていて、皆さん方、それで耐震についてどうこうという知識を持っていらっしゃる、あるいはプルサーマルについて知識を持っていらっしゃると思うと、そう

じないんですね。ただ、やはり届いていない。北海道もそうでしたね、最初に質問された方もプルサーマルのことはよく分からなかったと。

だから、何かその辺のことが探り当てられればいいんじゃないかと。だから、地震のことで、地震学者の方のこれで大丈夫だという方と、これじゃ危ないという方とお二人呼んでどうこうして討論していただく、お答えいただくということにはならないだろうと、またなり得ないだろうと思うんです。その情報について、こういう情報なら満足できるという具体的なお答えが出るような形になればいいのではないかと思うんですけれども、そこのところは難しいと思うんですね。

○新井委員　その趣旨、浜岡でもやめようと言ったでしょう。浜岡でやったときも、地震の話の直接的な、技術的な説明や何かは別な問題だということになったんですから。

○木元座長　そう、切りました。

○新井委員　基本的にはその問題はそれでいいんじゃないですか。

○木元座長　そのスタンスでね。

○新井委員　無理があり過ぎるということですよね。別途やってほしいということでしょう。

○木元座長　はい、出光さん。

○出光委員　プルサーマルのときに出ていて、私と中村さん出たときに、市の主催だったんですが、そのときに地震の話はやめましょうという話があったんです。また、しかるべきときに地震の話があるでしょうという話で、それにこれが行くと、多分地震の話を解説してくれるんだろうと必ず市の方は思うと思うんですね。それで、地震の話をあまりされないと、また何だという形になるんじゃないかという心配はあります。

○木元座長　出光さんの今の感触だと、地震の話をした方がいいというのは、地震の話をどういうふうにしたらいいと。

○出光委員　いい、悪いの判断までは示さなくていいと思いますけれども、例えば今どういうことが問題になって、今どういうふうにやっているという、それが見えるようにするのは重要かなと思います。だから、情報がちゃんと届いているかどうかという確認もするとして、どの程度伝わっているか、今こういうことを考えていますというのを伝えつつ、それについての反応をうかがうというのがいいのではないかという気はします。いかがですか。

○木元座長　指針の発表があったこととか、それから出光さんご自身もある程度絡んでお

答えになれるはずですよね。

○出光委員　地震の指針の方は、あまり私もよくわからないところはあります。

○木元座長　ただ、原子力発電所の設計そのもの、地震に対してはどういう考えで設計されているかとか。

○出光委員　耐震クラスの話とかは多分あるとは思うんですけけれども、どちらかというと私の専門外のところで。

○木元座長　そうですか。

○新井委員　そこが難しくなっちゃうんじゃないんですか。どういう陣容を用意しておけばいいのかという話、地震は結構難しいということに浜岡のときはなったと思うんです。あれだけでそうですから、一応話は聞くけれども、答えはできない――できないというか、私なんかではでませんけれども、というようなところでという話で私はあったと思うので、今回も同じで、例えば出光先生でも答えられないということですから、これはなかなか大変でしょうね。

○木元座長　そう。それで、最初に申し上げた、答えるのがこの会の性格ではないということで、やはり御前崎方式、今新井さんおっしゃってくださったように、御前崎方式のような感じになるのかなと。

○中村委員　ですから、そのプルサーマルについては、市議会も県議会も各会派、各党派でいろいろ話し合いが行われていて、議会での議論も活発なんですよ。彼らもそのことと、プルサーマル計画のことと耐震指針見直し、あるいは宍道湖の新しい活断層というのは別の話ですねというのは全部了解事項だったんですよ。ですから、純粋にこの間は出光先生とプルサーマルについてのシンポジウムをすることができたんですよね。

　確かに、いつ地震のシンポジウムをやってくれるのかと待っていることは確かです。ただ、これはそうじゃないよと。耐震指針が見直されて、それがどういうことで、これから既存のものについてはどう行われるのか、新しいものについてはどういう基準になるのかということは事実としての説明はできるじゃないですか。

○木元座長　報道情報というのはちゃんとありますから。

○中村委員　そこまででそれはいいんじゃないですか。それをどう思うとか、実際にそれは確認可能なのかとか、どれぐらいの耐震性を高めるための工事が必要なのかとか、そんな話は全然我々しに行くわけでもないし。

○木元座長　それは電力さんがそれぞれお考えになるから。

○中村委員　それはもう別のことですから、システムとしてこうなりましたと、制度として。なぜ指針が行われたかということと、こうなりまして、こうなっていますというところでそれはもうおしまいですと、今日はそれを聞きに来たわけじゃありませんのでという。

○齋藤委員長代理　追加の工事が必要であるか否かは、今、電力会社でさえ答えられないところですからね。新指針に従った調査及び評価をしてから提案する話ですから。

○中村委員　今調査しろと言われたとこですからね。

○木元座長　はい、吉岡さん、お待たせいたしました。

○吉岡委員　このテーマに関しては、私も新井委員やほかの方と基本的に同意見であり、これをやるならやはり地質屋が必要であり、かつ耐震屋も必要であると思います。地質屋は神戸に偉い先生もおりますし、あるいは２本の断層がつながっていることを主張している広島の先生もおりますので、人は呼べるんでしょうけれども、それをやるのは、この原子力委員会としては手が余り過ぎるというようなことだと思います。今回はやはり地震は話は聞きますけれども、もっと幅広い全般的なことについて、改善すべき点はどうかとか、そういうような枠の中で地震についても語りたいなら語ってくださいとう形にしてはどうでしょうか。

○木元座長　ありがとうございます。

結論が出たような気がいたしますけれども、そういう方向で進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。

１２月初めの、また皆様にスケジュールをお聞きしたり、松江の状況なんかをお聞きしてきちんとしたものを出したいと思うんですけれども、そうしますと、テーマはこれでいいですね。こういう形でいかせていただきます。

開催方法は、第１部、第２部でやはり分けましょう。それで、何人にしますか、パネリストは。成り行きなのかもしれないけれども。

東嶋さん。

○東嶋委員　私が参加した中では、富岡のときに、ちょっと記憶が定かではありませんが、地元のいろいろな組織の方々から意見募集をしたり、一般の方にも意見募集をして、どういう年代で、女性か、男性か、どういう意見を持っているかというような表をつくっていただいて、これらの方々の中から何人かを選ばせていただき、この方たちに語っていただこうということで参加していただいたように覚えているんですが。

ですから、私の希望としては、やはり一番意見が聞きたいのは地元の方々で、かつ、普

段発表する機会のないような主婦の方だったり、いわゆる専門家ではない一般の方々で、運動しているような方々ではない人たちもどんな意見を持っているかというのを聞きたいので、できれば先にそのように一般向けに意見募集をしていただいて、もしかしてそういう人たちの中から意見が出たら、そういう方たちにぜひご登壇いただき、足りなければ先ほど吉岡先生が言っていただいたように、そういうつてをたどって出ていただくということで、ちょっと時間的に難しいと思いますが、先に人数を決めるよりは意見募集をしていただきたいというのが私の希望です。

○木元座長　わかりました。

いいご意見だと思う。富岡のときはそうだったんですが、実は８町村ぐらいがご一緒で、合併じゃないけれども絡んでいるんですね。それで、その中から１人ずつ出すという意気込みがあって、事務局が出向いて行ったんです。それで、いろいろなことに当たって、この地区ではどういう方がいて、どういうご意見を持ってというのを選んで、そしてリストにして、その中からまたご意見を伺ったりして決めていったということがあって、バランスとしてはその地域にいて、町長さんは出なかったんですが、町長さんみたいな立場の方もいらっしゃるし、それから地元で事業していらっしゃる方や、婦人の組合の方もお出になったりといろいろあるんですけれども、中でやはり反対の意見、原子力に対してちょっと不安感を持ったり、慎重になっている方というのはいていただかなきゃ困るので、その地域の中でこういう方がいるということを伺うと、やはりその方を中心にバランスをとったということがあります。

だから、そういう方式でちょっと検討してみてよろしいでしょうか。それによって、結果、人数が８人になるか、５人になるか、３人になるか、出てくるのではないかと思うので。

○中村委員　人数は今固定しなくてもいいと思うんですが、東嶋さんの案と今までの案の折衷案みたいなんですけれども、現実には登壇していただくには、事務局が足を運んでお願いしないと、非常に難しいというのは事実としてありますよね。ですから、それはそれでやっていただくとして、時間的に厳しいと思いますが、やはりご意見募集をかけた方がいいと思うんです。それは、初期のころに、ご意見とともに当日発表者になってくれますかというのがあったじゃないですか。

○木元座長　ありました。

○中村委員　発表はしないけれども会場に行く、そういうのがありましたよね。ああいう

方式をもう１回やって、いわゆる東嶋さんが言われるような市民レベルで私も意見を言ってみたいという人を何とかリクルートできる方法を片方でやっておいて、片方では、はっきり言って地元との折衝をしなきゃいけないので、それなりの人選というのはやはり進めていって、ご意見募集の中で積極的に当日意見を言いたいという人が出てきたら、その人たちは優先的に発言機会を与える。それによって人数が多くなるということがあってもよくて、それだったら第１部と第２部のバランスを半々に別にしなくてもいいわけだから、会場から直接挙手で聞くのは、例えば４０分とかになってもいいから、第１部を２時間くらいとっちゃうとか。

○木元座長　ご意見を寄せてくださった方を中心に展開してですよね。

○中村委員　そうそう、その人たちを中心にしてとか。それができるようにもね。

だから、松江の場合は単純に御前崎方式とか福島方式とかいうのでもないので、うまく両方の手を使って、パラレルで登壇者を選んでいくような方法をとった方がいいかなという感じはしますね。

それと、吉岡さんに別に反対するわけじゃないんですけれども、ご承知のように島根県というのも結構難しい県でして、福井県ほどではないですが、西の方たちというのは、ほとんど広島文化ですよね。中国電力も本社は広島ですし。この辺は出光先生の方が詳しいかもしれないけれども、松江の方というのは、旧出雲の文化からするとまた全然違う文化圏ですよね。立地から西の方というのは、時間的にも広島へ出る方が早いしというようなことがあって、できるだけ松江でやるなら松江及びその周辺でパネリストをなるべく選ぶようにして。これは広島から連れてきたというと、ウエルカムのところもあるけれども、物すごい反発するところもあるんですよ。

ですから、最後の点はしょうがないですけれども、識者ということで別に東京から連れて行っても、九州から連れて行っても構わないんだけれども、基本的に何とかそういう方法を使って地元のパネリストを選べるような手法を、ちょっと時間的に厳しいかもしれないけれども、ぜひトライしてほしいなという感じですね。

○木元座長　そうですね。ちょっと事務局に聞いてみますけれども、そのとき絡んでいた方がもういなくなっちゃっています。１人お手伝いしていただいている社会経済政策の専門の方がいらっしゃるので伺ってみますけれども、ご意見募集は何カ月前にかけましたっけ。

○傍聴席　一月半ぐらいです。

○木元座長　一月半。何とかぎりぎり。

○中村委員　だから、あとは結構現実的な問題で、つまり告知をするじゃないですか。そのときに、パネリストの名前が入っているかどうかという話なんですよ。場合によっては、名前入ってなくても構わないんですよ。ただ、松江市在住の方とか、市民の皆様とかということでも僕は構わないと思うんですよ。それを待たなければぎりぎりまで折衝もできるし、意見もとれるんだよね。あれは告知との兼ね合いなんですよ。告知のときに名前を載せたいというのがあると結構時間的には厳しくなる。

○木元座長　そうです。だから、御前崎のときは交渉中というのを３名入れておきました。だから、できればその時点で自然体で広報したらいいと思うので、それは考えてみましょう。

○吉岡委員　あまり遠方からはあえて呼ばなくてもよくて、最悪の場合にはそちらにもアプローチするという点では中村さんの案でいいと思うんですが、松江の周辺も割合関心のある人々が多いとに伺っていて、出雲市もかなり近い。あとは、米子市もどうなのかなというような気もいたしますので、松江に限らなくて、周辺も含めた方がいいと思います。

○木元座長　だから、ご意見募集をかけて、その結果でまたご相談するかもしれません。

　では、今日は、１２月の初旬ぐらいに松江市でやることにして、テーマは「原子力～知りたい情報は届いていますか～」という例のタイトルにして、そしてパネリストとして出ていただく方については、まずご意見を募集すると、そこから始めさせていただきたいと思います。かけまして、ご意見募集をどういう形にするか、あるいは新聞社との兼ね合いでできること、できないこと出てくるかもしれませんので、チラシにするとか、これは予算の兼ね合いもまた出てくるので、いろいろご相談させていただきます。今日は結論は出せませんけれども。

　それで、皆様方には、次回またコアメンバー会議を開催いたしますけれども、その前にまたメールなりファクシミリなどでご意見を伺うことが出てくると思いますので、是非ご意見をお寄せいただければありがたいと思います。

　そういう形で、次回の開催についてはこの辺で閉じさせていただいて、その経過を見ながら固めていく方向をとらせていただきたいと思うので、よろしいでしょうか。

　ありがとうございます。

○中村委員　一応、１２月ということになると結構、島根、鳥取は冬厳しいので、欠航というのも一応頭のどこかには入れておかないといけませんね。

○木元座長　結構、欠航があるのね。

○中村委員　まあ大丈夫ですよね。

○木元座長　というようないろいろなリスクがあることを押し退けて、決行することに決めていきたいと思います。

○碧海委員　１つだけ質問なんですが、先ほど中村さんと出光さんがいらした、１，０００人集まったというお話でしたね。その１，０００人というのはどんな構成ですか。どういう方たちが１，０００人ぐらい集まられたんですか。

○中村委員　これは本当に普通の市民でしたよね。

○齋藤委員長代理　一般市民。

○碧海委員　それは、どこが主催したのですか。

○中村委員　市です。松江市だったので、広報は徹底していました。

○碧海委員　なるほど。

○齋藤委員長代理　これは土曜日か日曜日に開催したのですか。それとも普通の日でしたか。

○中村委員　土曜日でしたっけ。それで、会場も、松江の駅前の一番いい場所だったんですよ。

○木元座長　ホテルですか。

○中村委員　いや、ホテルじゃなくて、今第三セクターで運営しているのかな。だから、ほとんど市の持ち物みたいなものなんですけれども、旧国鉄跡地にどんと建った立派な建物なんですよ、会館が。

○出光委員　８月２０日の日曜日。

○木元座長　日曜日。昼間ですよね。

○小川委員　何ていうタイトルだったんですか。

○中村委員　「プルサーマルシンポジウム」、松江市主催。

○小川委員　それで１，０００人来たんですか。

○中村委員　はい。メインのホールと上にドームシアターがあるんですけれども、そこも全部押さえておいたんですよ。それで、松江市民全員ちゃんと案内状を出して、松江市民はメーンホールに全員入れるんですよ、それが６００人かそれぐらいですよね。松江市民が優先。松江市民じゃない人は、その上のドームシアターか、テレビモニターを置いた会議室かなんですよ。それが、一応満員になりまして、シアターの方の人たちは結局、質問

の機会がないわけですよ。

○木元座長　会場からやはり質問をとったんですね。

○中村委員　会場から、それはもうホールからとったんですよ。ですから、反対の市民の方が大分発言をされたんですけれどもね。これはすごかったです。

　というのは、一つは、島根県もそうなんですが、松江市が独自に勉強会とか、出光さんは行かれているかもしれないですけれども、いろいろな先生を呼ばれて、議会でも市の職員対策でも、市民対象でも、いろいろな勉強会とかを今までやってきているんです。

○木元座長　それはプルサーマルに関しても。

○中村委員　プルサーマルに関して。特に合併して立地になったというあたりから、割に細かくやっていて、市長室がやっているんですよ。市長室の担当なんですよ。先ほど出た地震は総務部の担当なんですよ。つまり、これはまた全然別なんですよ。というような事情がありまして、非常にわかっている方が役所にいらっしゃるんですよ、市長室に。

　ですから、周知も大変上手だったですし、その対応も非常によくて、会場は満杯。もちろん市の主催だから、最初には市長が出てきて、ごあいさつなさって、ぜひ活発な意見を聞かせてくれと言っておやりになったんですけれどもね。

○木元座長　パネリストは何人ぐらい。

○中村委員　パネリストは４人。

○木元座長　それはその立場が鮮明になっている方。

○中村委員　２、２です。

○木元座長　２、２の賛成、反対はっきり言って。

○中村委員　これは佐賀県と愛媛県でやって、３、３にしたら多過ぎたという反省がありまして、それを全部見て松江市は２、２でいいというので慎重な立場の方と是認する、推進の立場の方と２人ずつなんです。

○木元座長　一般の方じゃなくて学者の方ばかり。

○中村委員　学者です、これは。学者とあれは伴さんも。

○木元座長　パネリストでお出になったの。

○中村委員　そうです。

○木元座長　壇上でですか。

○中村委員　壇上で。伴さんと京大の小林先生。

○新井委員　これは会議に直接関係する話じゃないんですけれども、前から一度発言をし

てみたいと思っていたのは、コアメンバーの参加の方々のメンバーがやや固定的になっていて、会わない人には全く会っていないとか、市民懇の方にはほとんど顔を出さない方とかたくさんいますけれども、私もあまり言えた立場ではなくて、市民懇の方もサボっているのがありますし、この会合に出ていないというのがあるのであまり言えた義理ではないとは思いつつも、少しおかしいんではないかと思います。

実は、ほかの委員会でも同種の発言をさせてもらいました。ある大学の先生なんですけれども、もう５年前ぐらいになるんですが、緊急の会議で１５回ぐらい一斉にやって一度か二度しか顔を出さないで、それでメンバーで云々というのはおかしいので、別に糾弾してどうのこうのというつもりはありませんけれども、一応お引き受けになった以上は参加するというのが原則だと指摘しました。そこで今回是非発言させていただきたいと思いまして、指摘しておくということです。

○木元座長　ありがとうございます。

お声をかけてもお返事は、催促して来る方とか、それから事前に来ますよ、はっきり申し上げて行きますよというお返事があっていながら全く来ない。直前にやはり駄目だとおっしゃる、それがずっと続く方とか、何人かおいでになるのは事実です。ご意見もお寄せになる場合と全くおっしゃらない場合があったりして、やはり重要なご意見をお持ちだと思ってお願いしていることもあるので、どうしたらいいかなということです。

ただ、原子力委員会の専門委員として皆様にお願い申し上げているわけなんですけれども、任期が別に特に決まっているわけではなくて、決めようかという話もありますけれども、２年ごとにしようかとかあるんですけれども、今のところは別にそうなっていなくて、こちらからおやめくださいということはどうも言えないようなんですね。だから、ご自分の方から、この会議に僕は出られないとおっしゃっておやめになった露木さんとか、宮崎みどりさんとかいらっしゃいます。その方はご自分からこうこうこういう理由で申しわけありませんがというお言葉なり、ペーパーなりありましたので、それでおやめいただいたという経緯があります。正直申し上げて、非常に頭を悩ませております。

ですから、ご案内は一応出させていただくんですが、梨のつぶてで、出席率なんていうのはよくないんですけれども、０％の方もいらっしゃいます。これは今、新井委員からこういう問題提起がありましたので、この会議を運営していく上でもとても重要なことなので、これは再編成という形を提案してみて、それが可能であれば、メンバーの再編成ということで、ご出席いただいている方にはこのまま残っていただいて、あとはご遠慮いただ

くというような形もとれなくはないかもしれませんので、その辺検討させて、お預かりということにさせていただきます。

いいときにご発言いただいてありがとうございました。

○木元座長　次回開催日調整にあたって、駄目な日は×つけてください。それで、一番多数の方の日を決めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

ちょうどそんなところで時間にもなりました。この会の今後の運営の仕方というご意見もありましたし、新しい気持ちで今度松江の会も臨みたいと思いますので、またよろしくお願い申し上げます。

あと、事務局から何かございますか。

○西田補佐　資料第２５－４号でございますけれども、前回のコアメンバー会議の政策検討会議、議事録を出させていただいています。内容がよろしければこれで原子力委員会のホームページに掲載、公表させていただきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

○木元座長　これは１回お目通しいただいたんで大丈夫だと思います。

○西田補佐　はい、わかりました。では、そのような形でさせていただきます。

以上でございます。

○木元座長　それと、先日の「ｉｎ札幌」の市民参加懇談会は、また議事録のチェックというのは出てくると思いますので、またよろしくお願い申し上げます。

○中村委員　一応終わりましたよね。先週の金曜日締切だったんだよね。

○木元座長　そうですね。もう回っていますね。そろそろまとまると思いますので。ただ、パネリストの３人の方はちょっとボリュームがあったりするので、ちょっと時間がかかっているかもしれません。

そんな訳で、今日はおかげさまで、珍しくぴたり終わったような感じがいたします。お名残惜しいんですが、この辺で終わらせていただきます。

ありがとうございました。